

破壊から始まる創造

5月2日で30年の歴史を閉じた「黒崎町」の新潟県自動車運転免許試験場が壊されていく。しかしこのあとには、平成3年4月のオープンを目指している新潟県観光物産センターが建設される計画だ。(撮影5月30日)

町が 変わります

黒崎町に越して来た人は、一、二カ月ならわからないかもしれないが、一年もたてば、「変化の激しい街だな」と思うだろう。近所にスーパーマーケットが出来たり、水たまりの道路が舗装になったり、あるいは去年は鳴っていたヒバリの声が聞こえなくなったり、変化を感じさせてくれるのがこの町だ。何十年もこの町に住んでいる人は、二月の町長選で話題になった新潟市との合併問題を、「そういう時代なのかな」とか「このままでいいのでは」となどと複雑思っているに違いない。今月号では、国や県などの黒崎町を変えてしまつような大規模な事業を紹介する。

1

西バイパス(一部)小針街路が開通 交通の流れ、量が変わる。

道

今春、黒崎町にとって重要な道路が二本開通した。一本は新潟西バイパス、もう一本は小針街路である。新潟西バイパスは、下山田の黒崎インターチェンジから新潟市曾和を結ぶ延長七・二キロの国道116号線。事業は建設省新潟国道工事事務所が行い、第一期工事として北陸自動車道(立仏)から新潟市小針まで約八百メートルを建設した。

立仏には新しく新潟西インターが出来、新潟流通センター東側には小針インターが造られた。この区間が当面二車線で三月二十三日に開通した。これにより、新潟流通センターをはじめとする西新潟地域が、黒崎インター、国道8号(新潟バイパス)を通じて東新潟地域と結ばれた。工事は流通センターの新潟市側(小針インター)と亀貝インター)一・四キロが進んでおり、亀貝インターまでは平成二年度、全線開通は七年度の計画である。

小針街路は新潟市が昭和四十七年から建設している都市計画道路で、山田(旧国道8号)と新潟市小針(国道402号)を結び延長は三・三キロ。黒崎町内は六六〇メートルあり、寺地までは六十二年十二月に開通し、残る山田までの区間が四月二十日に開通し全線通行できるようになった。

西バイパスと小針街路の開通で、交通量や車の流れが大きく変わってきた(九ページ参照)。西新潟から東新潟へ向か

う車が、黒崎町内を通らなくともよくなっている。

外環状線は用地交渉中

道路交通の要衝、黒崎町にはまだまだ計画、工事中の道路がある。最も大きなものが、新潟外環状線だ。外環状線は北陸自動車道を新潟西インター(立仏)から新潟市長潟まで延ばすもの。延長は六・七キロ(黒崎町二・一キロ、新潟市四・六キロ)で、新潟市鐘木で東北横断自動車道いわき新潟線と結び、長潟(亀田工業団地北側)で国道49号線を連結する新潟亀田インターが出来ると見られる。

日本道路公団が建設し、開通は平成七年度を目標にしている。現在、町内では用地交渉が行われていたり、山田の新幹線高架橋下の設計協議が進められたりしている。新潟西インターの工事は西バイパス工事として建設省が担う。

このほか、主要地方道(県道)新潟寺泊線が工事中だ。これは、北場から善久の国道8号線を結ぶもので、県の新潟土木事務所が昭和五十四年に着手。現在、北陸自動車道料金所の手前から町道鳥原寺地線まで、約八百メートルを建設中だ。さらに、国道8号線までのルートを地元で説明していく予定だ。



新潟西インターと西バイパス
新潟流通センター東側の小針インターまで完成。センターの北側(新潟市側)を通過して西側の亀貝インターに向かって工事中(四月十日撮影)



下山田のご線橋から寺地方面へ 工事中の新潟寺泊線

